

Billie Eilish からみる女性らしさとは

～見た目からの印象～

長嶋 董

今回、Billie Eilish からみる女性らしさとは～見た目からの印象～を題材とし絵を作成した。

Billie Eilish はアメリカ ロサンゼルス危険と言われる地域ハイランドパークで育った。史上最年少でグラミー賞主要部門を制覇するなどアーティストとして成功し、さらにファッション業界にも影響を与えた。現在も多くの活動を行い、成長し続けているアーティストである。

Billie Eilish は、デビュー当時からゆったりとした服装をトレードマークとしている。だが、タンクトップ姿が目撃された際の自身の体型に対する偏見や服装についての批判を多く受けた。Billie Eilish はインタビューで、自身の服装選択や見た目について女性を理由に批判される不公平さを指摘するとともに、自分が良いと思うことをするべきと強調した。また、フェミニンなものやボディにフィットする服を着ると、媚びているや Billie Eilish が変わってしまった等の性的差別と第三者からの批判を多く受けた。だが、現在も多種多様な服を着用し、ライブを通じ、多くの人々に「ありのままがいい」とコメントし続けている。

今回描く作品では、Billie Eilish が受けた女性らしさや見た目に関する批判、女性を理由に物事を決めつける問題を、蝶と蛾を使用し表現した。一般的に蝶は美しいが蛾は不快とされている点を利用し、絵を見る第三者に「蝶はこんな柄じゃない」「蝶はこんな形じゃない」といった違和感を持たせ、今回の題材に含まれている女性らしい服といった意味で批判を受けた Billie Eilish に対する女性らしさを第三者から押しつけられる実態、かつ、見た目から判断する人々を蝶や蛾の形・柄を重ねることで表現する。かつ、レインボーフラッグのカラーである赤・橙・黄・緑・青・紫の絵の具を入れることで「どんな性のあり方も尊重されるべき」という考えを表現している。中心の蝶と蛾の混合では、好きなものを好きだと言う Billie Eilish の発言を可視化したものである。これらを踏まえ、描き上げた絵を第三者が見たとき、否定的な意見ではなく、ポジティブな意見が出たとき、周りの目を気にせず自由に表現できる女性が増加すること、かつ、周りの人の表現を認める人々の増加していくべきという自身の考えが他者に伝わる瞬間とした。

今回の作品を通し、長年の Billie Eilish の批判や誹謗中傷、女性という差別に屈すること無く、好きなものを好きだと表現し続け、かつ、女性という理由で着てはいけない服は存在しない。従って、性別での判断する概念を取り除き、自分自身がやりたいこと、したいことを人の目を気にせず取り組める世の中にするべきだと今回の題材に取り組む上で感じた。